

市史編さんのための調査活動がはじまりました

市史の編さんに必要な資料の収集・調査・研究などを行う「市史編集専門部会」が、いよいよこの春から調査活動を開始しました。専門部会は「原始・古代」「中世」「近世」「近現代」「自然」「民俗」の6つの分野ごとに設置されています。

各部会では、部会長を中心に部会のメンバーが市内の各地域を実際に歩いて景観を確認したり、地域の皆さんからの聞き取りや古文書の調査などを行っています。また部会会議では、調査の成果を市史に反映させるため、毎回白熱した議論や資料の分析が行われています。



地域での聞き取り調査



市内遺跡調査（梶田遺跡公園）

【目次】

市史編さんのための調査活動がはじまりました	1
各専門部会の活動状況	2
市史編集委員会を設置	6
市史編さんへの声-倉員保海先生の手紙から- 佐藤 広	7
史料紹介 朝鮮通信使と八王子の猪 藤田 覚	8
市史編さんのあゆみ	10
職員の異動	10
受贈図書・資料	11
市史編さん室の調査にご協力をお願いします	11
歴史の窓 海を渡る蝶・アサギマダラ 押田佳子	12

各専門部会の活動状況

(平成21年9月30日まで)

部 会 名 原始・古代部会

部 会 長 関和彦(共立女子第二中学校・高等学校校長、國學院大學文学部兼任講師)

部 会 委 員 池上悟(立正大学文学部教授)、及川良彦(東京都埋蔵文化財センター主任調査研究員)、黒尾和久(国立ハンセン病資料館学芸課長)、深澤靖幸(府中市郷土の森博物館学芸係長)

専門調査員 黒田智章(青山学院大学大学院生)、紺野英二(八王子市郷土資料館学芸員)、服部敬史(和光大学表現学部非常勤講師)、横田深雪(元東京家政学院大学大学院生)

これまでの活動

1. 部会会議

(1) 第1回部会会議(5月16日)

部会として活動する上での課題を整理し、各委員の担当分野を検討しました。

(2) 第2回部会会議(6月15日)

本編と資料編の内容、今後の調査活動計画を検討しました。

(3) 第3回部会会議(7月31日)

専門調査員の作業内容を確認した後、及川良彦委員が「多摩の弥生時代から古墳時代前期を考える」と題して報告しました。このほか、第1回実踏調査の打ち合わせをしました。

(4) 第4回部会会議(9月17日)

『原始・古代資料編』の構成や内容について協議しました。池上悟委員が「八王子の古墳」と題して報告しました。

2. 調査など

(1) 第1回実踏調査(8月8日)

梶田遺跡、南多摩窯跡群、片倉城跡、白山神社など、市内の主な遺跡などの実踏調査を実施しました。白山神社では、氏子総代の方から、経塚発見当時の様子を伺いました。また、東京都埋蔵文化財センターで、多摩ニュータウン地区の遺跡の概要について調査しました。



原始・古代部会では、八王子市の膨大な遺跡調査の成果をどのように市史に活かしていくのか、短期間でいかにまとめるかが課題です。まず、基礎資料として、

発掘調査報告書からの各遺跡の概要作成

遺跡分布図の作成

遺跡一覧の作成

を進めています。

部 会 名 中世部会

部 会 長 池上裕子（成蹊大学文学部教授）

部 会 委 員 加藤哲（都立東大和南高等学校教諭）、小林一岳（明星大学人文学部教授）、櫻井彦（宮内庁書陵部図書課主任研究官）

専門調査員 遠藤ゆり子（立教大学文学部非常勤講師）、徳永裕之（専修大学大学院生）、長谷川裕子（立教大学文学部兼任講師）、原美鈴（中央大学大学院生）

これまでの活動

1. 部会会議

（1）第1回部会会議（6月21日）

夏季集中調査及び秋から冬の資料調査について打ち合わせました。

（2）第2回部会会議（7月18日）

夏季集中調査及び秋から冬の資料調査の日程調整について打ち合わせした後、旧『八王子市史』編集に携わった佐々木蔵之助氏から、市内の資料、旧家、寺社、夏季集中調査を行う地域の特徴などについて話を伺いました。

2. 調査など

（1）第1回調査（5月17日）

川口川上流から中流域の実踏調査を実施しました。

（2）第2回調査（5月31日）

式分方町・上壱分方町・大楽寺町・諏訪町・四谷町・泉町・叶谷町周辺の実踏調査を実施しました。

（3）第3回調査（6月21日）

湯殿川上流域及び片倉城跡の実踏調査を実施しました。

（4）夏季集中調査（8月21日～23日）

式分方町・上壱分方町・大楽寺町・諏訪町・四谷町・泉町・叶谷町周辺の聞き取りを中心とする調査を実施しました。古い地形の確認・記録、中世の石造物や、神社等に納められた棟札、古文書や古い絵図の撮影や実測を行いました。調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

部 会 名 自然部会

部 会 長 畔上能力（八王子自然友の会会長）

部 会 委 員 新井二郎（元高尾自然科学博物館学芸員）、粕谷和夫（八王子・日野カワセミ会会長）、草野保（首都大学東京大学院理工学研究科助教）、菱山忠三郎（八王子自然友の会副会長）

これまでの活動

1. 部会会議

（1）第1回部会会議（5月28日）

八王子の自然を広い視野をもって捉えるため、分野と担当委員の拡充について話し合いました。

（2）第2回部会会議（9月16日）

市史を構成する分野、本年度および来年度の調査計画について検討しました。

2. 調査など

植物分野：昭和49年に作成した植生図（植生の分布を示した地図）をもとに現在版の植生図を作成するため、本年度は地図資料調査、来年度以降は市内の実踏調査を実施する予定です。

鳥類分野：過去に確認された鳥に関する文献調査を実施する予定です。

部 会 名 近世部会

部 会 長 藤田覚（東京大学文学部教授）
部 会 委 員 神立孝一（創価大学経済学部教授）、光石知恵子（古文書を語る会副会長）、山崎圭（中央大学文学部准教授）
専門調査員 榎本博（國學院大學大学院生）、亀尾美香（八王子市郷土資料館学芸員）、北村厚介（中央大学大学院生）、清水裕介（パルテノン多摩歴史ミュージアム学芸員）、中村陽平（板橋区文化財専門員）

これまでの活動

1. 部会会議

- (1) 第1回部会会議（5月16日）
- (2) 第2回部会会議（6月28日）
- (3) 第3回部会会議（7月24日）

部会会議では、近世資料編のテーマを設定するために、まず八王子市郷土資料館にある史料（古文書）のうち、特に主要なものの目録を手がかりに検討しました。

その結果、生糸や織物、林業と山林用益、河川利用と治水、旗本知行主との関わり、幕末の政治情勢と地域の関わり、などが候補にあがりました。

その他にも宗教や信仰（高尾山薬王院）、文化（千人同心の文化活動、国学、剣術）なども必要になってくると考えられます。

しかし、18世紀、19世紀に比べて、17世紀の史料が少ないため、この時期の史料をどれだけ集められるかが今後の課題になっています。

2. 調査など

- (1) 上恩方町実踏調査（6月28日）
- (2) 小比企町実踏調査（7月24日）
- (3) 小比企町磯沼家文書調査（8月4日、8月27日、9月13日）

2回の実踏調査では、徳川幕府が編さんした『新編武蔵国風土記稿』を手がかりに、旧家・神社仏閣の位置などを確認しながら近世の村の景観をたどる調査を行いました。また、旧家の子孫の方のお話も、文字史料だけでは分からないような内容もあり、昔の人々の生活を思い描くのに大変参考になりました。

その後八王子市郷土資料館において、史料を閲覧する調査に入っています。実際にくずし字で書かれている内容を読み取り、資料編に掲載すべき史料を選択する作業を継続して行っています。



その他、市民のみなさまが現在も保存されている史料を把握するための所在調査も進めています。まず、以前の『八王子市史』刊行以来、約半世紀近く調査されていない、由木・由井・横山・浅川の各地区を中心に調査する計画です。引き続き、市民のみなさまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

部 会 名 近現代部会

部 会 長 新井勝紘（専修大学文学部教授）

部 会 委 員 梅田定宏（東海大学菅生高等学校教諭）、齊藤勉（都立南多摩高等学校教諭）、源川真希（首都大学東京オープンユニバーシティ准教授）

これまでの活動

1. 部会会議

（1）第1回部会会議（5月18日）

今後の部会活動を進めていく上で検討が必要な課題などを整理しました。

（2）第2回部会会議（7月6日）

部会委員ごとの担当分野、今後の近現代部会の人員体制、今年度の具体的な調査計画などについて検討しました。

（3）第3回部会会議（8月24日）

部会委員の各担当分野について当面必要な調査活動、近現代部会の来年度活動計画、『近現代資料編』の構成について検討しました。

2. 調査など

8月11日、新井部会長が「ふだん記運動」などで知られる故橋本義夫氏関係資料を調査しました。その他の資料調査についても、今後逐次実施する予定です。

部 会 名 民俗部会

部 会 長 小川直之（國學院大學文学部教授）

部 会 委 員 入江英弥（國學院大學文学部兼任講師）、小野寺節子（國學院大學文学部兼任講師・東京都文化財保護審議会委員）、津山正幹（八王子市文化財保護審議会委員）、宮本八恵子（日本民具学会会員）

専門調査員 乾賢太郎（パルテノン多摩歴史ミュージアム学芸員）、大藪裕子（東村山ふるさと歴史館学芸員）、神かほり（日本民具学会会員）、高久舞（國學院大學大学院生）、美甘由紀子（八王子市郷土資料館学芸員）

これまでの活動

1. 部会会議

（1）第1回部会会議（5月17日）

今後の調査、刊行に関して意見交換をしました。

（2）第2回部会会議（7月26日）

活動計画、実踏調査について検討しました。

（3）第3回部会会議（9月20日）

調査計画、刊行計画について検討しました。

2. 調査など

9月20日に上川町、上恩方町の実踏調査を実施しました。今後は民家、祭り、織物などのテーマ別の調査や、地域別の調査を実施する予定です。

各部会の構成員は、平成21年9月30日現在

市史編集委員会を設置

平成21年4月から、市史の内容や各巻の構成など、市史の編集に関する重要で専門的な事項について協議するための組織として、「八王子市市史編集委員会」を設置しました。市史編集委員会の委員は10名で、市史編さんに必要な資料の収集や調査研究などを行う市史編集専門部会の部会長6名と市史編さん審議会委員4名とで構成されています。

第1回の市史編集委員会は、4月11日（土）に開催され、委員の互選により、委員長に藤田覚委員を、副委員長に新井勝紘委員を選出。また、事務局からこれまでの市史編さん事業の概要を報告するとともに、各専門部会の活動準備の状況などについて、情報交換を行いました。

その後6月から9月までの間に、3回の市史編集委員会を開催し、各専門部会の調査研究活動の状況についての情報交換や、市史編さん基本構想を踏まえて作成する「八王子市市史編集方針」の内容などについて協議を行っています。市史編集委員会では、今後も平成23年度から始まる予定の八王子市の新たな市史刊行に向けて、協議を進めていく予定です。



第1回編集委員会

市史編集委員会の会議の概要は、市史編さん室のホームページ（<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/seisaku/13570/index.html>）で、随時紹介していきます。

八王子市市史編集委員会委員名簿

平成21年11月20日現在

職名	氏名	選出区分	所属等
委員長	藤田 覚	近世部会長	東京大学文学部教授
副委員長	新井 勝紘	近現代部会長	専修大学文学部教授
委員	相原 悦夫	市史編さん審議会委員	八王子市文化財保護審議会会長
委員	畔上 能力	自然部会長	八王子自然友の会会長
委員	池上 裕子	中世部会長	成蹊大学文学部教授
委員	小川 直之	民俗部会長	國學院大學文学部教授
委員	関 和彦	原始・古代部会長	共立女子第二中学校・高等学校長
委員	前田 成東	市史編さん審議会委員	東海大学政治経済学部教授
委員	松尾 正人	市史編さん審議会委員	中央大学文学部教授
委員	光石知恵子	市史編さん審議会委員	古文書を探る会副会長

（委員長、副委員長以下、50音順）

故倉員保海（くらかず やすみ）先生は、昭和42年3月発行の『八王子市史』下巻、第2章古代の第3節平安時代、第3章中世の第1節鎌倉時代・第2節室町時代、第3節戦国時代の1後北条氏の大名領形成・2後北条分国の発展・3北条氏照の民政・4後北条氏の滅亡を執筆され、『八王子市史』附編、第1章の合併町村の沿革は上島良治氏と執筆されている。その倉員先生は、平成21年2月13日、86歳でお亡くなりになられた。

市史編さん室が設置されるとすぐ、私は倉員先生に手紙を書いた。その後先生からは、3回にわたって手紙やハガキでご意見をいただいた。ここには平成19年4月18日付のものを紹介する。なお、紙面の都合で割愛した箇所は、「（略）」と記した。

「拝復 八王子市制100周年記念の「新八王子市史」に着手された由、お手紙を拝見致しました。大任を前にしてご決意の程を痛感致し、小生も久しぶりに40年前に刊行の「現市史」を一読致し感無量でした。「東京オリンピック」で国中が湧き返った当時の仕事で、八王子でも加住の自転車レース用新道が滝山城跡の西側に完成したのを思い出しました。（略）40年前に関係された方々は大部分故人になられたようで、生き残っている小生の愚見を申しあげます。編さん室のスタッフを、貴方が信用できる人々で整えられることが第一、編さんのための基礎的資料を編さん室に揃えられることが必要です。そして「新市史」全体の構想を練り上げ、それを分担執筆される人を選考されるのはその次の仕事です。（現市史の場合その逆をやった為に途中空転したようです）大正6年の八王子市制から始めて、最近40年間は記述されていない、のですから、「現市史」で書き落としたこと、最近40年間に新しく起こったこと、を思いつくまに並べてみました。後者から言えば、高速道路の建設（略）、八王子ニュータウンの将来、文化財では八王子城御主殿の発掘、復元等です。前者では、由木地区の八王子編入は由木村の現地が八王子編入派と日野編入派に分裂して村役場も村議会も大騒ぎとなり、村会と住民投票ともに多数で八王子編入を決めたが、（略）松木、南大沢以西だけ調査に行った記憶があります。「隣接地区の八王子編入」を記述するならば、この辺りの文章は書き直しが必要でしょう。加住地区についても、北側の秋川沿いの高月、切欠地区にはあきる野市に編入を希望する動きがあり、現在、高月（略）は八王子、切欠はあきる野市で収まったらしく地図には記入されています。（略）大正6年より古い時代の史実をどの程度扱うのか、（略）先史、古代、中世、近世、明治を詳しく記述すればページ数はオーバーするでしょうから、題目を定めて簡潔にするべきでしょうか。遺跡の発見状況、横山党、大江、長井氏、船木田庄、大石氏、北条氏照、大久保長安、十八代官、千人同心、近代では民権壮士等々が旨くおさめられるか、更に「現市史」があまり取り上げなかった八王子の洋学、医学方面、短期滞在された文人を含めて先ず検討し必要な執筆者を頼む、とされたら、ページをとらずに良い市史ができると思います。（略）」

3回目の手紙は、お亡くなりになる1か月前のものであった。いずれも熱い思いが随所に読み取れ、身の引き締まる思いである。倉員先生が手紙で指摘された「編さんスタッフのこと、編さんの基礎資料を編さん室にそろえること、構想を定めてからの人選、先の市史で扱わなかったことや『八王子市史』刊行後の出来事を入れること」等の御意見は、編さん経験者としての重要な指摘が含まれている。これらを踏まえ、徐々に専門部会の活動を展開させながら編さん体制を整え、大方の期待に答えて行きたいと考えている。（さとう ひろし）

この文書は、江戸時代に上恩方村の名主をつとめた草木家に伝来したものです。江戸時代の日本は、限られた外国としか関係をもちませんでした。朝鮮とは対等の隣好関係を続けました。朝鮮通信使（つうしんし）とよばれる使節が、徳川将軍の代替わりごとに新将軍をお祝いするため、朝鮮国王の手紙（「国書（こくしょ）」）を携えて来日しました。

日本側は、使節一行を宿泊地や江戸において豪華な食事でもてなしました。ところが、朝鮮人は日本人と食生活が異なりました。当時の日本人は獣肉を忌避（きひ）しましたが、朝鮮人は肉を食べましたので、牛や豚肉のかわりに猪や鹿の肉が調理されて出されました。なお、日本人もまったく食べなかったわけではなく、「山鯨（やまくじら）」とよんで江戸時代もくだるほど食べるようになっていきました。使節を接待する幕府や大名は、猪や鹿を領地の村々に命じて集めました。享保（きょうほう）4年（1719）に、遠江（とおとうみ）豊田郡（静岡県）の村から塩漬けの鹿2疋（『静岡県史』資料編13）、宝暦（ほうれき）14年（1764）に、信濃国伊那（いな）郡（長野県）の10か村から猪2疋、同年に江戸での食事に使う猪が、上野国多野（たの）郡の山中領（さんちゅうりょう）とよばれた地域（群馬県）から供出されたことなどが知られています（原田信男『江戸の食生活』岩波書店）。

さて草木家の文書を読みますと、八代将軍徳川吉宗（よしむね）の将軍職就任を祝って享保四年に来日した朝鮮通信使の食事のために、上恩方村から23疋もの猪（文書には「猪鹿」と書かれています。これは猪をさすと考えられます）が江戸（浅草）に送られたことがわかります。当時の上恩方村には、90丁をこえる鉄砲がありました。おそらく、村民総出で鉄砲により猪を仕留めたことでしょう。代官から一疋につき2分2朱を支給するといわれ、とりあえずということで金2両が渡されました。ちなみに、信濃の村には、猪1疋につき銭600文と玉薬代銭46文でした。上恩方村に支払われる予定のお金を銭に換算すると3貫300文くらいになります。信濃の村の5倍も払われることになっていたようです。

ところが、上恩方村ではそのくらいのお金では割りにあわないほどの費用がかかり困っていたところに、享保6年3月に代官所から朝鮮通信使国役金（くにやくきん）を出すように命じられました。この国役金とは、通信使が京都と江戸の往復で使った人と馬の費用を、沿道の武蔵国を含む15か国の村々に負担させるもので、村高100石につきいくらかという割合でかかってきます。上恩方村民は、猪23疋の代金を国役金に振り替える、つまり国役金を免除して欲しいと代官所に訴えたのがこの文書です。猪の供出を命じた代官が異動してしまい、結局、約束した代金は支払われなかったようです。上恩方村民にすれば、猪と国役金の両方を負担することになりますので、なんとかしてくれと訴えたのだと思われます。

上恩方村は、朝鮮通信使という江戸時代最大の外交行事と使節たちの食事の食材を提供することにつながり、外交を食材の面で支えていたといえます。このほか上恩方村は、江戸幕府から、江戸城本丸（ほんまる）で使うというだけで具体的な使い道はよくわかりませんが、寛政4年（1792）には生きた鹿の子を、寛政6年には生きた猪を上納するように命じられています。恩方地区の猪は、江戸時代も現在も農作物を荒らす害獣ですが、江戸時代には国家外交やその他の用途で江戸幕府を支えた動物でもあり、恩方地区の住民はその鉄砲の腕前により幕府の要請に応えていたのです。

（ふじた さとる）



(後略)

〔読み下し文〕

恐れながら書付をもつて御訴訟申し上げ候御事

(享保四年)

一 去る亥の九月石川伝兵衛様御代官所の時分、朝鮮人御来朝御用につき、猪鹿打ち差し上げ候ようにと仰せ付けられ候あいだ、当村より猪鹿二十三疋打ち差し上げ申し候、その節御代官様仰せ付けられ候ようは、一疋につき新金二分二朱ずつ下さるべく候よし、まずまず御手当として新金二両下され候、しかしながら、名主・組頭・惣百姓・鉄砲打ちともに大分失脚あいかかり申し候につき迷惑仕り候ところに、このたび御国役として朝鮮人御入用仰せ付けられ候あいだ、御訴訟申し上げ候、右の猪鹿代二分二朱の積もりをもって御慈悲に仰せ付けられ候らわば、惣百姓難儀ござなく有りがたく存じたてまつり候、以上、

武州多磨郡上恩方村

享保六年丑三月 名主 十右衛門

同 八左衛門

組頭 太郎兵衛

河原清兵衛様 (以下組頭十七名)

御役所 長百姓九名省略)

〔現代語訳〕

おそれながら書面により御訴え申し上げます事

一 去る亥の年の九月石川伝兵衛様御代官所るとき、朝鮮人の来日にかかわる御用で、猪鹿を打って差し上げるようにと命じられましたので、当村から猪鹿二十三疋を打って差し上げました。そのとき御代官様がおっしゃるには、一疋につき新金で二分二朱ずつくださるということでした。まずお手当として新金で二両くださいました。しかし、名主、組頭、惣百姓、鉄砲打ちたちは全員、この件でかなりの費用がかかり困っていましたところ、さらにこのたび御国役として朝鮮人御入用の負担を命じられましたので、お訴え申し上げました。右の猪鹿一疋につき二分二朱の代金で相殺して国役金を免除してくだされば、惣百姓は難儀することもなく有り難く存じあげます。

【筆者紹介】

藤田覚(ふじた さとる)

東京大学文学部教授。文学博士。

八王子市市史編集委員会委員長および近世部会長。

市史編さんのあゆみ 平成21年3月1日から9月30日まで

平成21年

- | | | |
|----|-----|---|
| 3月 | 1日 | 市史編さん基本構想（素案）パブリックコメントを実施（～30日） |
| | 13日 | 南相馬市博物館市史編さん係（福島県）を視察 |
| 4月 | 11日 | 第1回市史編集委員会を開催 |
| 5月 | 16日 | 第1回原始・古代部会会議、第1回近世部会会議を開催 |
| | 17日 | 第1回民俗部会会議を開催、第1回中世部会実踏調査を実施 |
| | 18日 | 第1回近現代部会会議を開催 |
| | 28日 | 第1回自然部会会議を開催 |
| | 31日 | 第2回中世部会実踏調査を実施 |
| 6月 | 6日 | 第2回市史編集委員会を開催 |
| | 9日 | 相模原市市史編さん室（神奈川県）を視察 |
| | 15日 | 第2回原始・古代部会会議を開催 |
| | 21日 | 第1回中世部会会議を開催、第3回中世部会実踏調査を実施 |
| | 28日 | 第1回近世部会実踏調査を実施、第2回近世部会会議を開催 |
| 7月 | 4日 | 市史編さん審議会会長松尾正人氏が、中央大学人文科学研究所公開研究会で本市市史編さん事業について報告 |
| | 6日 | 第2回近現代部会会議を開催 |
| | 18日 | 第2回中世部会会議を開催 |
| | 24日 | 第2回近世部会実踏調査を実施、第3回近世部会会議を開催 |
| | 26日 | 第2回民俗部会会議を開催 |
| | 31日 | 第3回原始・古代部会会議を開催 |
| 8月 | 2日 | 第3回市史編集委員会を開催 |
| | 8日 | 第1回原始・古代部会実踏調査を実施 |
| | 21日 | 中世部会夏季集中調査を実施（～23日） |
| | 24日 | 第3回近現代部会会議を開催 |
| 9月 | 7日 | 財団法人江川文庫（静岡県）所蔵資料調査を実施 |
| | 16日 | 第2回自然部会会議を開催 |
| | 17日 | 第4回原始・古代部会会議を開催 |
| | 20日 | 第1回民俗部会実踏調査を実施、第3回民俗部会会議を開催 |
| | 27日 | 第4回市史編集委員会を開催 |

職員の異動（平成21年4月1日から9月30日まで）

（転出）平成21年4月14日

杉田博主査 生涯学習スポーツ部学習支援課へ

（転入）平成21年4月1日

押田佳子市史編さん専門員（嘱託員） 新規採用

平成21年4月14日

福田美和子主任 学校教育部教育総務課より

受贈図書・資料（平成21年1月1日から9月30日まで）

多くの方々から、図書や資料をご寄贈いただきました。御芳名を記し、謝意を表します。

〔個人など〕 荒井明久 諫山禎一郎 金子公郎 鬼頭英彬 久保喜一 佐々木長生
澤井榮 清水英雄 白柳和義 関口文雄 高野修 橋本岩雄 橋本鋼二
峰岸三喜藏（敬称略・50音順）

〔公的機関〕 厚木市教育委員会教育総務部文化財保護課文化財保護係
稲城市教育委員会教育部生涯学習課 上田市立博物館
熊谷市教育委員会社会教育課市史編さん室
小金井市教育委員会生涯学習部生涯学習課文化財係市史編さん担当
小平市企画政策部 子安神社 相模原市総務局総務課市史編さん室
札幌市総務局行政部文化資料室 寒川文書館 たましん地域文化財団
多摩ニュータウン学会 調布市総務部総務課公文書管理係歴史資料整理室
東京都埋蔵文化財センター 所沢市教育委員会教育総務部文化財保護課
豊島区立郷土資料館 長岡市教育委員会越路分室教育係
日本野鳥の会東京支部 沼津市教育委員会文化振興課市史編さん係
八王子商工会議所 八戸市立図書館市史編纂室 日野市郷土資料館
平塚市博物館市史編さん担当 府中市文化スポーツ部文化振興課文化財係
福生市郷土資料室 町田市立自由民権資料館 南相馬市博物館
大和市役所総務部総務課市史編さん担当 UR都市機構
由井西部地域住民協議会 米子市史編さん事務局

市史編さん室の調査にご協力をお願いします

市史編さん室では、八王子の自然や歴史に関する資料調査、地域に伝わる行事や地名などについて市民のみなさまにお話を伺う聞き取り調査、動植物の分布や生息状況を確認する生物生息調査などを実施します。




これらの調査を行うにあたり、市史の編集に関わっている研究者や市史編さん室の職員が、身分を示して市民のみなさまのお宅にお伺いする場合がございます。実際に調査でみなさまの地域に訪れる際には、地域の方々にパンフレット（写真）をお配りしてご説明させていただいております。よろしくご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。

市制100周年記念事業 平成19年度から平成28年度まで
八王子市市史編さん はじまりました！

◆八王子の歴史の本を作りませう◆
八王子市では毎年100周年の記念事業として、独自の「八王子市史」を編さんします。市の歴史編さん部が22年度の市の歴史事業として企画され、発行されました。この編さんから半世紀がたち、八王子市は大きく変化を遂げています。次世代に先人たちが築いてきた地域の歴史や伝統文化を伝えるため、また、未来の私たちのまちづくりのために、自然、歴史、民俗の伝承から八王子の姿を明らかにしていきます。

市史編さんの目的とは
1. 八王子の自然や歴史、伝統文化を改めて見直し、八王子市の発展と文化の向上に役立てます。
2. 地域に対する理解を深め、市民自分が行うまちづくりに活かします。
3. 歴史資料を顕世に広げるとともに、現在及び将来の活用を目指します。

◆市民のみなさまのご協力が必要です◆
市史を作るには、市民のみなさまの力が不可欠です。多くの方向に市史編さんの事業に参加していただくようお願いいたします。また、調査や編さん準備に資料を拝借いたします。御都合に合わせさせていただきます。お気軽にメールでご連絡ください。



八王子市史編さん室

歴史の窓③

海を渡る蝶・アサギマダラ～インドより高尾山の浅黄色を追いかけて 市史編さん専門員 押田佳子

先日、インドから来た友人2名より「群生するアサギマダラ（タテハチョウ科マダラチョウ亜科アサギマダラ属）を見たいから、高尾山を案内してほしい。」と言われ、同行することになった。

アサギマダラはその名の通りチョコレート色の縁取りの中に透き通るような浅葱色の紋が印象的な美しい蝶で、日本～ヒマラヤと広域に分布する。初秋になると群れで2000km以上におよぶ「渡り」を行う性質があり、世界各地でその道筋を辿る調査が各地で行われている。しかもこの渡りは、渡り鳥のよ

うに同じ固体が南北を行き来するのではなく、北上した世代がたどり着いた先で繁殖後に一生を追い、続いて次世代が南下したどり着いた先で繁殖、やがて一生を終える、といった「片道切符」の繰り返しで成り立っている。

アサギマダラの新種登録は、1848年にインドのカシミール地方で採集された個体をもとに行われ、学名(生物につけられた世界共通の名称、通常ラテン語で命名)の *Parantica sita* は、アサギマダラ属名を示す *Parantica*(シヴァ神の別名が由来)に、ヴィシュヌ神の妻・女神シータの名前を種小名 *sita* として合わせたものである。インドで理想の女性とされる女神の名前をつけられたアサギマダラは幸せの象徴として捉えられており、ある地方では一旦捕まえた後すぐに自然に戻す「バタフライリリース」をすると、幸せになれるというジンクスがあるのだという。しかしながら残念なことに、現地付近にはアサギマダラに類似した強い毒性を有した蝶(羽に触れると皮膚がかぶれる恐れがある)が混在して棲息するため、近づくことすらままならない状況にある。

インドの昆虫同好会誌では、高尾山を都心近くで安全にアサギマダラと触れ合えるスポットとして紹介しており、インドのアサギマダラ愛好家の多くは是非とも行ってみたい場所として高尾山を掲げているのだという。

無事にお目当てのアサギマダラを手に捕ることが出来た友人たちは、バタフライリリースの記念と移動調査に貢献するためとして、羽に「TAKAO 09.07.18」とマーキングしたのち、再び大空へと返した。高尾山のアサギマダラは、10月を過ぎると一斉に南下を始め、2、3か月の中には南西諸島や東南アジア、インド、ネパールに辿りつくと言われる。

もしかしたら、高尾山を出発した一団が数か月後にインド・デリーで私の友人と再会し、デリーで育った次世代が再び高尾に舞い戻ってくるかもしれないと思うと、ロマンを感じずにはられない。



アサギマダラ (*Parantica sita*) の標本
(資料提供：八王子市教育委員会)

参考文献：『アサギマダラ 海を渡る蝶の謎』山と溪谷社、平成18年(佐藤英治)